

「アセスメント入所」で進める 地域包括ケア

第2回

ケアプラン作成の 現状と限界

今回は、私たちフテ福祉
会が2009年から本格的
に研究開発し続けてきた
「アセスメント入所」につ
いて、具体的に紹介してい
く。それに当たりまずはケ
アプラン作成の現状を確認
したい。

衆知の通り、介護保険法
上では事前にケアプランが
策定されていない場合は居宅
サービスを開始することは
できない。策定までの流れ
は、現状を把握し、今後の
生活に向けての目標を設定
し、本人や家族の要望も確
認して、まず原案を作成す
る。これを「サービス担当

者会議」で検討し、最終説
明と確認を利用者や家族に
行い、ケアプランが確定す
る。

現在フテ福祉会で使用し
ている書式は国が示してい
る標準様式に則ったもので
最も一般的なのだが、改
めてそこに記載すべき事項
を挙げてみる。

第1表「居宅サービス計画
書(1)」：要介護状態区
分、利用者及び家族の生活
に対する意向、介護認定審
査会の意見及びサービス種
類の指定、総合的な援助の
方針、生活援助中心型の算
定理由

第2表「居宅サービス計画
書(2)」：生活全般の解
決すべき課題、援助目標

第3表「週間サービス計画
書」：曜日、時間帯ごとの
サービス内容、主な日常生
活の活動

また、居宅サービスの柱
となる聞き取りではそれは不可
能と言え。今回私たちが
行った調査研究(更なる
地域包括ケアの推進を目指
した多職種協働のアッセ
メント手法の汎用化に関する
調査研究)2015年度老
人保健事業推進費等補助金
事業)においても、ケアマ
ネジャーからは、いわゆ
るお初サービスの時や介護
必要状況、意向や好み等々
の作成において、利用
者の本心にできないこと、
行っ。

独自の「アセスメント
シート」開発中、老健
以外でも
談話からは家族関係等のソ
ンシートを研究開始から
7回も作り直し、試行錯誤
を繰り返してきた。「アセ
スメント入所」の促進のた
めにシートの簡略・簡素化
を目指し、本年7月には最
終版を完成させるべく現時
点でも改良研究を進めてい
る。

「できること・したいこと」明確に把握 多職種の見立てをケアプランに反映

(長期目標、短期目標)、援
助内容(サービス内容、種
別、頻度、期間)

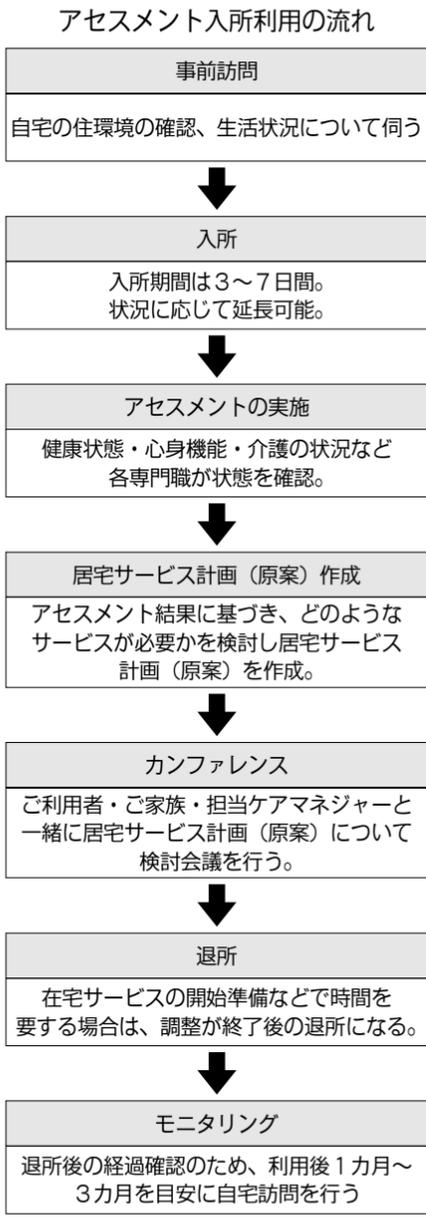
第3表「週間サービス計画
書」：曜日、時間帯ごとの
サービス内容、主な日常生
活の活動

また、居宅サービスの柱
となる聞き取りではそれは不可
能と言え。今回私たちが
行った調査研究(更なる
地域包括ケアの推進を目指
した多職種協働のアッセ
メント手法の汎用化に関する
調査研究)2015年度老
人保健事業推進費等補助金
事業)においても、ケアマ
ネジャーからは、いわゆ
るお初サービスの時や介護
必要状況、意向や好み等々
の作成において、利用
者の本心にできないこと、
行っ。

第3表「週間サービス計画
書」：曜日、時間帯ごとの
サービス内容、主な日常生
活の活動

また、居宅サービスの柱
となる聞き取りではそれは不可
能と言え。今回私たちが
行った調査研究(更なる
地域包括ケアの推進を目指
した多職種協働のアッセ
メント手法の汎用化に関する
調査研究)2015年度老
人保健事業推進費等補助金
事業)においても、ケアマ
ネジャーからは、いわゆ
るお初サービスの時や介護
必要状況、意向や好み等々
の作成において、利用
者の本心にできないこと、
行っ。

また、居宅サービスの柱
となる聞き取りではそれは不可
能と言え。今回私たちが
行った調査研究(更なる
地域包括ケアの推進を目指
した多職種協働のアッセ
メント手法の汎用化に関する
調査研究)2015年度老
人保健事業推進費等補助金
事業)においても、ケアマ
ネジャーからは、いわゆ
るお初サービスの時や介護
必要状況、意向や好み等々
の作成において、利用
者の本心にできないこと、
行っ。



また、アセスメントのた
めの入所施設は老人保健施
設に限定する必要はないと
も考えている。1人ケアマ
ネジャーによる居宅ケアア
プラン作成の現状の改善を
目的とするこの「アセメン
ト入所」の普及を目指す上
では、あくまでも24時間単
位で状況を観ること、1
人ではなく複数の専門職が
アセスメントをして居宅の
ケアプランに連動させるこ
とが重要と考えている。
(つしま医療福祉研究財団
理事長・対馬輝美)